

天将星

青春期の不安定も、壮年期の保守性も通用しない悠々とした自信と自負が満ちあふれ、何事にも動じない重厚さを持つ頭領(とうりょう)の器(うつわ)たらんとする、まさに帝王の時代です。

去る者を嫌い、来るものを好むとされ、頭領の器は安穩(あんのん)を嫌い、つねに大衆をわが手中に収めようとするのです。内側が平和であれば外側に動乱を求め、外側が平和であれば内側で傲慢(ごうまん)さを発揮し、まわりを震撼(しんかん)せしむるのです。それが天禄星の世界なのです。

また天将星世界に生を受けたものは、幼年より親縁うすく、兄妹縁うすく、それこそ金縁うすく、家庭運うすく…という環境のなかでこそ、中年期ころより上昇運の流れに乗って、はじめて王座を得ることができ、自分の信念と理念のもとに庶民を率いて新しい世界を作り上げることが可能なのです。いわゆる中庸を得る事が出来ないのが、この天将星の定めかも知れません。

天将星が与えられたライセンスは自分の理念と信念を打かざし、万民を率いて新しい人間世界を開く事だけです。

また天将星世界は、初代の質とされ人の後を継ぐという天命はありません、はるかに続く荒野に向かって新しい道標を立てていく人なのです。そのため、この世界には、創始者・初代の帝王…などの意味が付されているのです。

「人の高みに登ったものは、孤独の罰を受ける」の言葉通り、効成れば成るほど、孤独になっていく世界なのです。

ただ悲しい事に、内側のエネルギーを常に発揮していなければ安住が保てないのです。皇帝は死に至るまで、その役目に徹するものなのでありましょう。

天将星中殺

天将星世界は、だいたいにおいて「六親に縁なし」「家庭運なし」と言われていますが、この六親にはもちろん親が入っていますが、中殺されますと親に縁がないというよりも、家庭運がないと云うことになります。(つまり配偶者運が定まりにくいとか、子供運というものに縁が薄くなります)ですから、親とかきょうだいに中殺の現象が出るといちがいに論ずるわけにはゆきませんが、まず配偶者運と子供運の、この二つは、非常にマイナス面が大きいのです。(つまり配偶者とか、子供運との折り合いが悪くなって、ささいなことで喧嘩をしたりで、家庭が安息の場になりにくくなりなるのです。)

またこの中殺者が、いくら子宝に恵まれていたとしても、その子供たちが青年期になると、みんな何等かの原因で身をもちくずしていくことになるでしょう。(少年期までは親孝行な子供達であっても、例外ではありません。また、天将星中殺のある人の子供は、幼少期には神童・天才と将来を囑望されますが、成人するに従って「ただの人」となり、成人以後は凡人以下の人となる…とされています。しかし天将星中殺の人の子供は、すべて幼少期に神童・天才であるとは限りません。ここでは確率として多くなると考えてください)

またこの星の中殺者は、人生のわたり方というものに、一貫性がなくなる場合があります。つまり何か一つのを、ずっと続けてゆくという子ばり強さではなくて、非常に変わりやすいところがあるのです。

天将星が中殺にあうと、極端に成功する場合と極端に不成功に終わる場合とがありますが、成功・不成功の差が激しく、この星の中殺者には人生における中庸というものがありません。